

教育について考えよう

尼崎市教育委員会
教育長 松本 眞

松本 眞(まつもと しん)

- 静岡県静岡市出身
- 文部科学省に入省
- 文科省では、教育基本法の改正、高等教育行政、教員養成、情報教育政策等を担当。
- 内閣官房に出向し成長戦略も担当。
- 2018年4月より尼崎市教育長に就任
- 妻と三人の男児とともに尼崎市内に在住



時代の流れの中で、意義づけがなされる学校教育

「ありがたい存在」としての学校(学びの権利保障)

+

行かなければならない学校(選択肢の多様化)

①大学進学率

1955年:10.1% ➡ 2017年:57.3%(専門学校を含めれば80.6%)

②高校進学率

1955年:51.5% ➡ 2018年:98.8%(就職者0.2%)



どのような教育を提供するのか(教育の中身)が重要となっている

例えば、学校給食。

「バランスの取れた栄養摂取」もさることながら、「子育て支援」の観点からも重要視されるようになってきた。

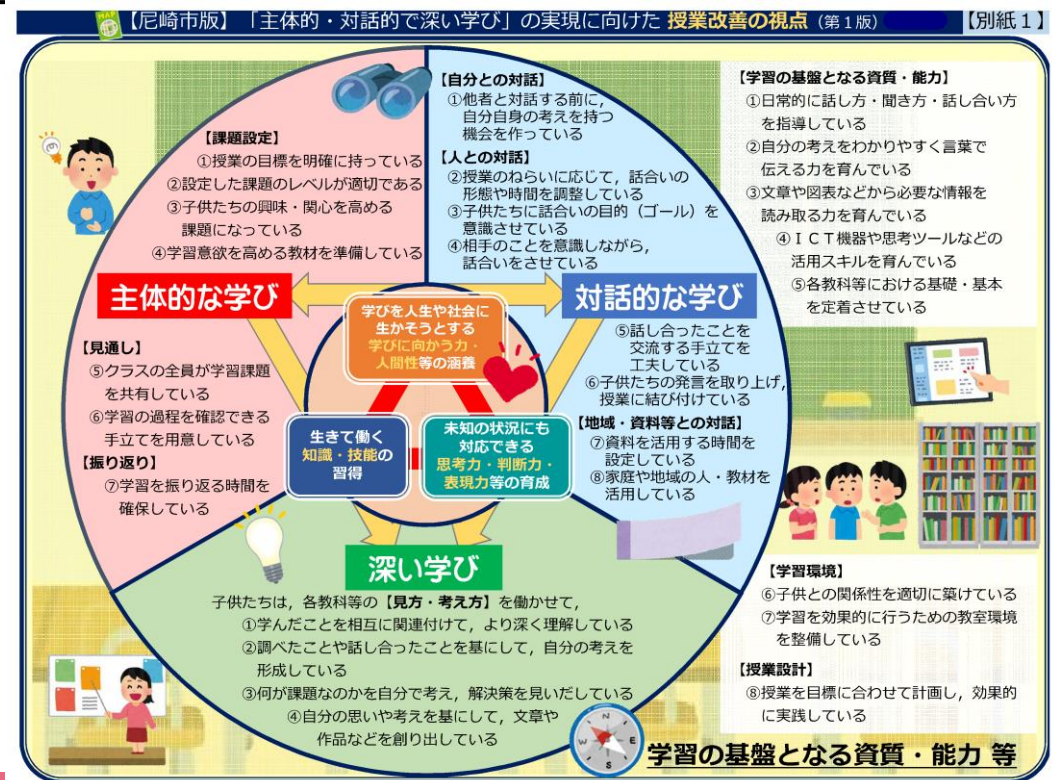


<https://www.gakkyu.or.jp/info/history/>

- ① 教育を通じて、格差を作らない。
- ② 一人ひとりが社会で生きていけるようになるための基礎・基本を身に付けられるようにする。
- ③ 安全な教育環境を提供する。

授業スタイルの改革

- 学校で過ごす時間の多くが授業。授業が魅力的になることが大事。
- 「詰め込み」ではなく、習得した知識をもとに、多面的に物事を見たり、比較検討したり、自分の考えを「表現」したりできるようにする授業へと改善していく。



「知っていること(知識)」は民主主義の基礎

『教師の勝算』(Daniel.T.Willingham)

「教師が子どもに求める技能—分析したり、批判的に考えたりする能力など—を習得するには幅広い事実的な知識が要求される・・・think（考える）という言葉が他動詞であることに注目すればよい。考えるための「対象」が必要である」

「子どもの頭に新しい概念を直接注ぎ込むことはできない。新しい概念はすべて、子どもがすでに知っている概念の上に構築する必要がある。」

基礎学力の底上げに向けた取組

平成31年2月
尼崎市教育委員会

基礎学力の底上げに向けた方針

— 帯学習と放課後学習の取組の充実に向けて —

各学校においては、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善の取組が進められており、本年度の全国学力・学習状況調査の児童質問紙において、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」等の割合が大きく改善しました。また、本市すべての小学校が、課業時間内における10分から15分の帯学習、又は放課後学習を実施し、基礎学力の向上に向けた取組も授業改善の取組と並行して進められているところです。

平成30年度より「あまっ子ステップ・アップ調査」が小学1年生～中学2年生まで毎年実施されることとなり、各学校は児童一人ひとりの学習理解度及び学習状況等を客観的・経年的に把握・分析ができるようになりました。今後、授業改善や児童一人ひとりに応じたきめ細かな指導の更なる充実を図るとともに、組織的かつ継続的な検証改善サイクルを確立していくが必要になります。

そこで、教育委員会では、学力定着支援事業において、「きめ細かな学習支援」として帯学習や放課後学習を位置付けるとともに、取組結果を踏まえて工夫・改善していくためのシステムを各学校で確立し、取組をさらに充実させていくための冊子を作成しました。

各学校におきましては、本冊子を活用しつつ、基礎学力の向上が一層図られることを期待します。

I 全校共通取組内容

1 帯学習

(1) 内容

10分から15分の短時間を実施する基礎学力の向上等を目的とした学習

(2) 実施学年、日時

全学年で、毎日、10分から15分の帯学習を校時表に位置づけて実施する。

(3) 学習内容

計算（そろばんを含む）、漢字

(4) 使用教材

各学校において、児童の実態に合った教材を使用する

例：自作プリント、市販プリント、ドリル、校務用PCに入っている問題データベース等。

(5) 定着度のたしかめ

学期に1回以上、各学校で取組の定着度をたしかめる検定試験等を実施し、結果を学校で共有する。

例：自作プリント、市販プリント、ドリル、校務用PCに入っている問題データベース等。

2 放課後学習

(1) 内容

児童生徒の学習意欲の向上と学習習慣・基礎学力の定着等をめざして、各学校が計画的に放課後の時間帯を利用して学習の場を提供する。

(2) 実施学年、回数

全学年で週1回以上実施する。

(3) 実施期間

年間を通して曜日を決めて実施する。

※1年生の開始時期については、各校の実態に合わせて決めることとするが、2学期からは実施する。

(4) 対象児童

学習の定着が必要な児童

(5) 学習内容、使用教材

各学校において教科等を決定するとともに、児童の実態に合った教材を使用する。

例：自作プリント、市販プリント、ドリル、校務用PCに入っている問題データベース等。

○ 学力向上に成果を上げている学校の取組を全校に横展開。

○ 「基礎学力の底上げに向けた方針」策定。

・ 全学年で毎日10～15分の帯学習を実施

・ 全学年で週1回以上の放課後学習を実施

○ 授業改善・学力保証推進チーム設置による取組の徹底（1学期に最低1回の全小学校訪問など）など

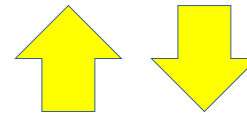
あまっ子ステップ・アップ調査

市長部局・市
教委それぞれの
データを収
集・統合

尼崎学びと育ち研究所

- ・複数の研究チームによる中長期的な研究・分析
- ・科学的根拠に基づき教育政策の立案

データの提供

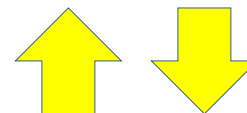


研究結果のフィード
バック(中長期)

教育委員会

- ・児童生徒の実態把握
- ・学力向上施策の検証と改善
- ・教員研修への反映

学力向上に
向けたプラン



結果のフィード
バック(短期)

小学校・中学校

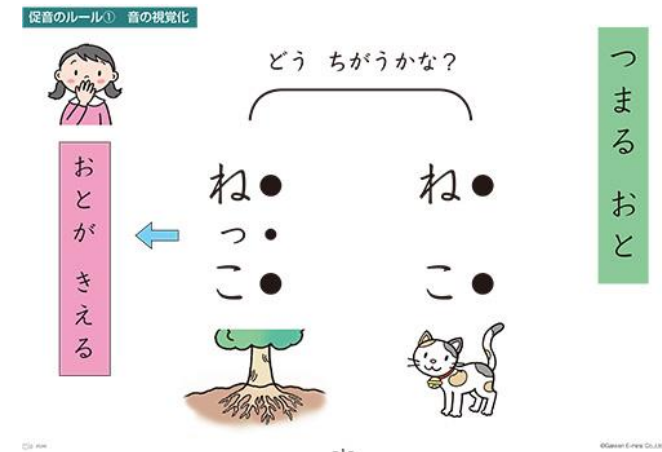
- ・学習指導の充実と改善
- ・児童一人ひとりの学習状況の把握
- ・個々の児童生徒に応じた継続的な検証改善サイクル

○市独自の学力テスト・生活実態調査により、一人ひとりの「学びの軌跡」を記録化。

○一人ひとりが、自分の成長を見える化できるようにする。

新しい教育手法の実験的導入

多層指導モデルMIM



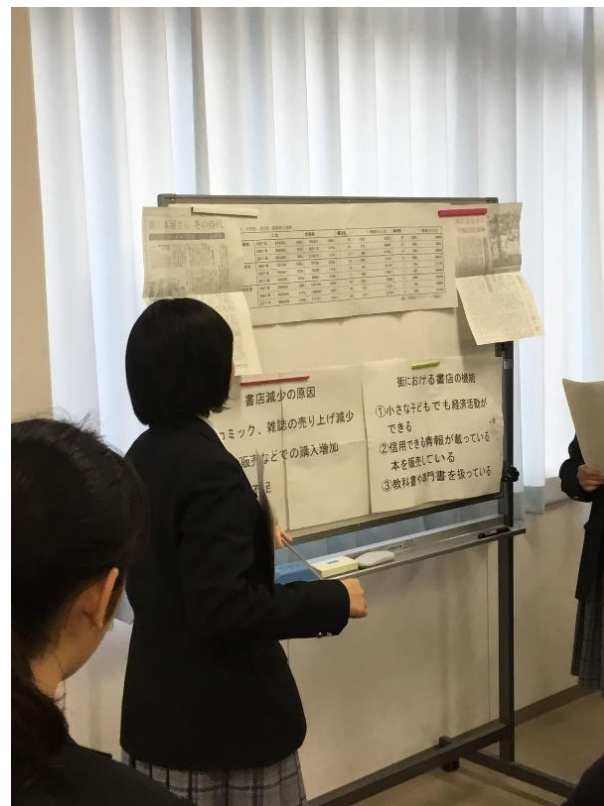
民間教育事業者による 中1 夏季勉強会

実社会で求められる力の育成

【調べ、まとめ、論理だてて説明（表現）できる力の育成】
（「正解」より「アウトプット」重視）



http://www.kaiseikan.ed.jp/newstab/cat-everyday/post_14389/



不登校の子供たちの「居場所」づくり

教育支援室
ほっとすてつぱeast



ほっとすてつぱwest



この他にも、児童生徒個人単位での身近な居場所、学習の場として「サテライト教室」
外出することが困難な児童生徒に対しては大学生等のボランティアを派遣「ハートフルフレンド」

民間の不登校支援団体とのネットワーク構築 ／親への支援

不登校支援団体ネットワーク会議
(民間フリースクール運営事業者、NPO法人、
日本財団、行政機関などで構成)

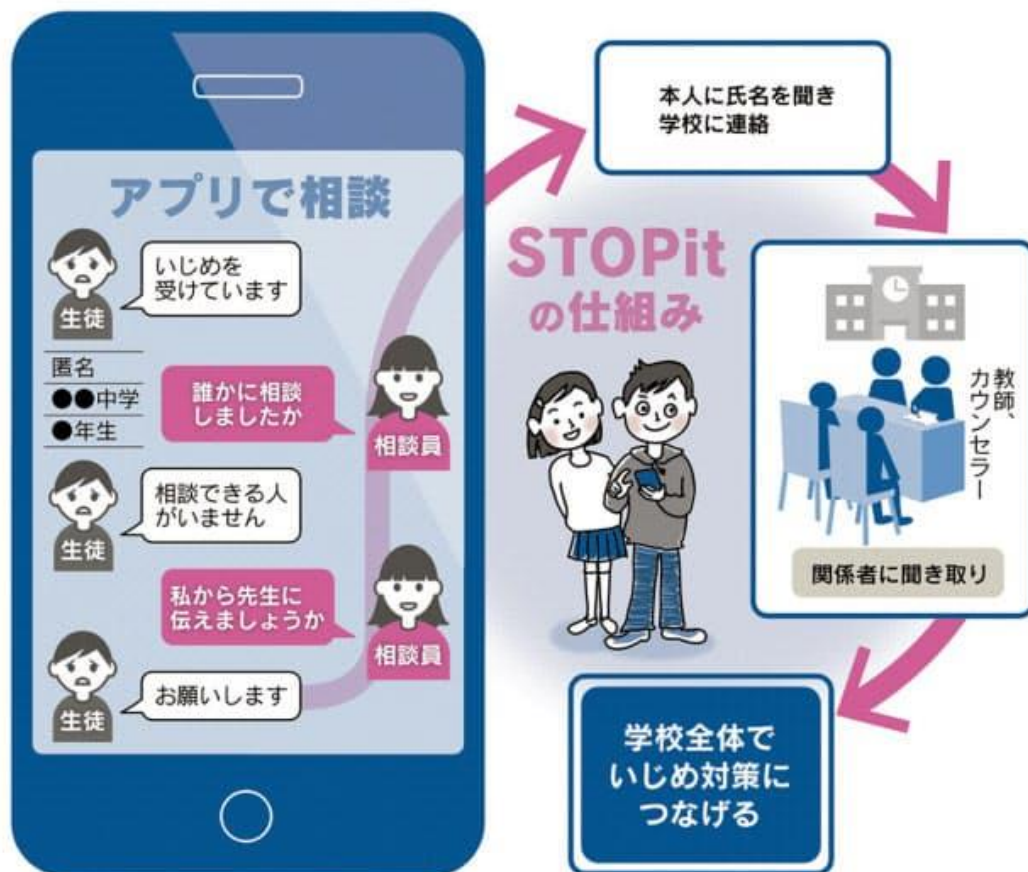


不登校の子どもを持つ親のつどい



スマホ・SNS時代のいじめ防止対策

SNSだから相談できる



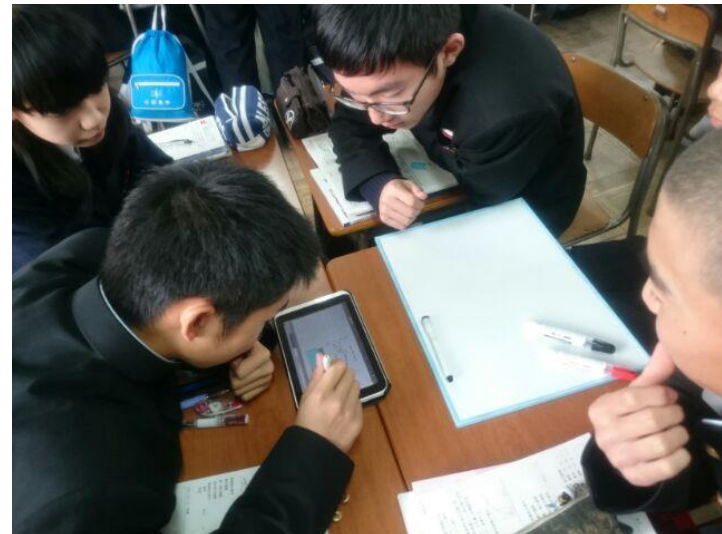
脱傍観者授業



https://www.nikkei.com/news/image-article/?R_FLG=0&ad=DSXMZO3693133025102018000001&dc=1&ng=DGXMZO36930120V21C18A0000000&z=20181026

ICT環境整備／スクールサポートスタッフ

- PC更新、タブレット導入、LAN環境整備
- 市費でスクール・サポート・スタッフを全小学校及び特別支援学校に配置
- 技術指導及び大会への引率等も単独で行うことができる部活動指導員をモデル事業として5人配置 など



学校の施設整備

1. 耐震化:完了
2. 教室・特別教室エアコン:完了
3. トイレ洋式化:順次
4. 小学校給食室ドライ化:完了
5. 中学校給食:2022年1月～
6. ブロック塀:順次 など

その他の主な課題

- 体力向上
- 学校と地域との連携
- 体罰防止
- 高等学校特色化
- 公立幼稚園魅力化
- 特別支援教育の充実
- 教育費負担軽減 など

尼崎市教育振興基本計画の策定に向けて

5カ年スパン(令和2～6年度)の教育施策の方向性を示すとともに、市民とのビジョンの共有を目指し、懇話会に諮りながら策定作業を進めています

主な論点

1. 就学前教育
2. 義務教育
3. 高等学校教育
4. 豊かな心の育成、いじめ防止
5. 不登校対策
6. 特別支援教育
7. 教育環境の整備
8. 教員の育成・勤務環境の整備
9. 学校園・家庭・地域社会一体と
なった教育の充実 など

尼崎市教育振興基本計画 懇話会委員

- 堀田 博史(園田学園女子大学 教授)
川上 泰彦(兵庫教育大学大学院 准教授)
石橋 由紀子(兵庫教育大学大学院 准教授)
埋橋 玲子(同志社女子大学 教授)
山本 秀樹(関西国際大学 准教授)
川口 祐子(園田幼稚園 園長)
橋本 悦明(立花小学校 校長)
増田 裕一(大庄北中学校 校長)
谷 清隆(尼崎双星高等学校 校長)
岡村 泰玄(尼崎市PTA連合会 副会長)